

公認会計士

難易度	最上級
最短学習期間	1年半
中大生人気学部	商学部・経済学部を中心に

WORK CONTENTS

企業がビジネスをしていくうえで欠かすことのできない財務書類の監査・証明などを請け負うのが会計士の主な仕事です。近年ビジネスの多様化・国際化に伴い、企業経営に多くの会計スキルが必要な時代。会計士が活躍するフィールドはますます拡大しています。

■ 主な公認会計士の業務

監査…企業が作成する貸借対照表、損益計算書その他の財務諸表が企業の財政状態及び、経営成績を適正に表示しているか否かについて第三者の立場で調査検討しその内容について判断し、意見を表明することを指します。公認会計士の独占業務です。

税務業務…公認会計士になると税理士になる資格も同時に得られ税務業務も幅広く行うことができます。

そのほか、コンサルティング業務やIPO(株式公開支援業務)、また2008年より設けられた内部統制報告制度など、ますます公認会計士の活躍の場は広がっています。

活躍のフィールド・就職先

監査法人・独立開業・
コンサルティングファーム・
一般企業など

論文式試験合格までの道のり



試験ガイド

短答式試験 ●試験日/5月下旬と12月上旬の日曜日 ●受験科目/財務会計論 管理会計論 監査論 企業法 の4科目
●受験資格/特にありません。どなたでも受験できます。

短答式試験に合格すると短答式試験を2年間免除
合格すると2年間、短答式試験の受験を免除され、論文式試験から受験できます。つまり短答合格した年も含めると3回受験のチャンスがあります。

論文式試験 ●試験日/8月下旬の3日間
●受験科目/会計学 監査論 企業法 租税法 選択科目(経営学 経済学 民法 統計学)4科目のうちから1科目
●受験資格/短答式試験合格者 ●H29年合格率/11.2% (合格者数1,231名/出願者数11,032名)

論文試験は科目合格制
総得点で判定する一括合格制で52%の得点比率を基準として公認会計士・監査審査会が相当と認めた得点比率で判定します。ただし、各1科目につき、得点比率が40%に満たないものは不合格になることがあります。なお、一部試験科目について同一試験における合格者の平均得点比率を基準として公認会計士・監査審査会が相当と認めた得点比率以上を得れば科目合格となり、2年間試験免除となります。
●H29年度試験の科目合格者/422人(属人ベース)

問い合わせ先
公認会計士・監査審査会
TEL 03-3506-6000(代表)
URL: <http://www.fsa.go.jp/cpaab>

論文式試験合格後の流れ

実務補習・修了考査

実務補習は、講習を受けて単位を修得していく形式となります。規定の単位を修得すると修了考査を受験することが出来ます。これに合格するとすべての実務補習を修了したことになります。

業務補助など

監査証明業務を補助することや財務に関する監査、分析等の実務従事を2年以上行うことが必要です。行う期間は試験合格の前後を問いません。

短答式試験は年2回実施

ますますチャレンジしやすい試験へ

2010年度試験より短答式試験が年1回実施から5月・12月の年2回実施に変更になりました。受験機会が増えることによって在学中合格のチャンスも広がります。

ココで合格! 生協取扱スクール一覧

スクール	資格の大原	資格の学校TAC / Wセミナー	クリアール	LEC東京リーガルマインド	東京CPA会計学院
公認会計士	通学/通信	通学/通信	通信	通学/通信	通学/通信